

テーマ

ふるさと知夫村の「ひと・もの・こと」を発掘・活用しよう！

事業実施地区（中学校区名）	知夫村立知夫小中学校
事業実施公民館等名 （中学校区内にある全ての公民館等）	知夫村公民館 知夫里島開発総合センター 知夫村図書館地域交流室

テーマの背景

教育委員会が主催の事業がほとんどであり、村民主体の公民館活動というものが減少している本村において、「住民の拠点としての公民館」を復活させていきたい。また、知夫村にある「ひと・もの・こと」について、どんな魅力や価値があるか注目し、地域の良さを再発見できるような機会として活用していきたい。

実際の取組

④ふるさとの魅力や価値に気づき、理解を深める学びの場を設定

事業名：知夫里遊学「つくってワクワク 竹とカズラで花差しづくり」

<取組の概要>

【目的】 知夫村にある自然の素材（竹・カズラ）を取りに行き、花挿しとして活用することで、素材に付加価値をつけ、知夫村の自然の豊かさに気づく機会とする。

【対象】 子どもから大人まで

【場所】 知夫小中学校（会議室・技術室）

【内容】 地域講師を招いての学習会（花差しの作り方及び素材の紹介）を行った後、のこぎりで竹を切ったり、ペンチを使って針金でカズラを竹に固定したりする体験活動を行った。また、できあがった花挿しに花をいけて観賞することで村民同士の交流を深める機会にもなった。



<成果と課題>

- ・参加者からは「竹を切る活動が面白かった。」「大人も子どもも一緒に最後まで楽しめた。」「作業が楽しかった。家でもやってみたい。」など肯定的意見が多くあった。
- ・地域講師を発掘し、地域の自然素材を活かした体験活動を事業化したことで、小学校のクラブ活動に繋がり、子どもたちへの豊かな体験活動を提供できた。
- ・子どもの参加が少なかったため、広報の工夫、充実を図っていきたい。

⑤ふるさとの「ひと・もの・こと」を次世代に伝え、守っていく活動の実施

事業名：知夫里游学「エコフラワー教室」

<取組の概要>

【目的】「エコフラワー教室」を復活させることで、これまでのメンバーと新しく移住してきた方が一緒に活動をして、交流を深める機会とする。

【対象】子どもから大人まで

【場所】知夫小中学校（学校図書館）

【内容】2日構成とし、1日目に新聞紙で作るエコフラワーのつくり方、使用する新聞紙の選び方などの基本・基礎を中心に学んだ。2日目は、製作したエコフラワーと知夫村の野草を採集して作ったドライフラワーでフラワーアレンジメントする体験をした。また両日も、参加者同士の交流を行えるように茶話会を実施した。



<成果と課題>

- ・公民館活動を復活させることで、公民館を拠点とした地域住民の活動を再開させることが出来た。また、新しく移住してきた方と地元民との交流の場としても公民館が機能したことがこれまでにない成果と言える。
- ・作業中も和気あいあいとした雰囲気でしたので、今後も地域住民を中心とした公民館活動を継続していきたい。
- ・地域講師を発掘し、地域の自然素材を活かした体験活動を事業化したことで小学校のクラブ活動に繋がり、子どもたちへの豊かな体験活動を提供できた。

まとめ

テーマに迫るためのポイント

- ・村民が主体となって事業を行っていけるように、公民館主事はサポートとして関わることで、住民の主体性を生み出したことが成果である。公民館主事はサポートとして、主に事業計画の作成、役割分担の確認、広報活動を行い、地域講師には、講座の内容決め、材料の準備、当日の進行などを積極的に行ってもらったことで村民が主体的に行う事業となっていった。
- ・知夫村にある「ひと・もの・こと」の魅力や価値を再認識できるように、地域の声を聞き、事業化していったことで、地域の良さを再発見できる機会になったことが成果である。

今後の展望

・現在は公民館主事が計画を立て、準備・運営等を行っているが、将来的には村民が主体的に計画から立案して活動していくことが本来の姿だと考える。また、単発の講座として終わらず継続させることや連続性を持たせることも必要であり、その点においては公民館主事が整理を行っていかうと考えている。事例で上げた事業の講師及び参加者については、日頃から主体的に活動をしたり支えていただいたりしている方であるため、知夫村公民館としてその方々への働きかけやサポートをどのように行えるのかを模索していく。